

## 抄 録

### 当院における照射赤血球液-LRの 廃棄率減少への取り組み

検査技術課<sup>1)</sup> 麻酔科<sup>2)</sup> 外科<sup>3)</sup>

○黄瀬祐馬<sup>1)</sup> 板橋弘明<sup>1)</sup> 吉田珠枝<sup>1)</sup>

小幡良次<sup>2)</sup> 清野徳彦<sup>3)</sup>

#### 【はじめに】

当院では予定手術用の照射赤血球液-LR（以下、赤血球製剤）が過剰に依頼される傾向であり、2017年1月～12月の廃棄率は6.5%であった。2018年1月に病院機能評価で廃棄率が高いことを指摘され、静岡県血液センター西部管内でも問題視されていた。この度、当輸血委員会が赤血球製剤の廃棄率減少を目標に取り組んだため、その結果を報告する。

#### 【目的】

赤血球製剤の依頼単位数を減らし、返品の運用を見直すことで廃棄率を3%未満に減少させることを目的とした。

#### 【方法】

2018年1月より予定手術の赤血球製剤依頼分に関して、緊急時等を除き依頼可能単位数に上限を設けた。使用しなかった赤血球製剤は、手術日翌日のヘモグロビン濃度次第で返品してもらうよう

基準を設けた。また、医局会等で廃棄率状況の報告や手術時に過剰に依頼している旨を周知し、医師の意識改善に努めた。在庫分赤血球製剤の有効期限が近づいた場合、医局内に掲示を行い、適応患者がいた場合には使用を促進した。

#### 【結果】

2017年1月～12月では廃棄率6.5%であったのに対し、2018年1月～12月では廃棄率1.4%まで減少した。

#### 【考察】

予定手術時には術式に関わらず過剰に赤血球製剤を依頼する傾向にあり、依頼上限を設けることで依頼数を抑えることができた。未使用分の赤血球製剤はヘモグロビン濃度の基準を設けたことで、早期に医師へ返品依頼ができたことと、期限切れ間近の赤血球製剤を医師へ周知することにより、他患者への早期転用が可能となり、期限切れによる廃棄を減少させることができた。

#### 【結語】

廃棄率減少には医師の協力が不可欠であり、そのためには納得のできる形で基準を設けることが重要だと感じた。今後も当活動を継続し、更なる廃棄率減少に向け取り組みたい。